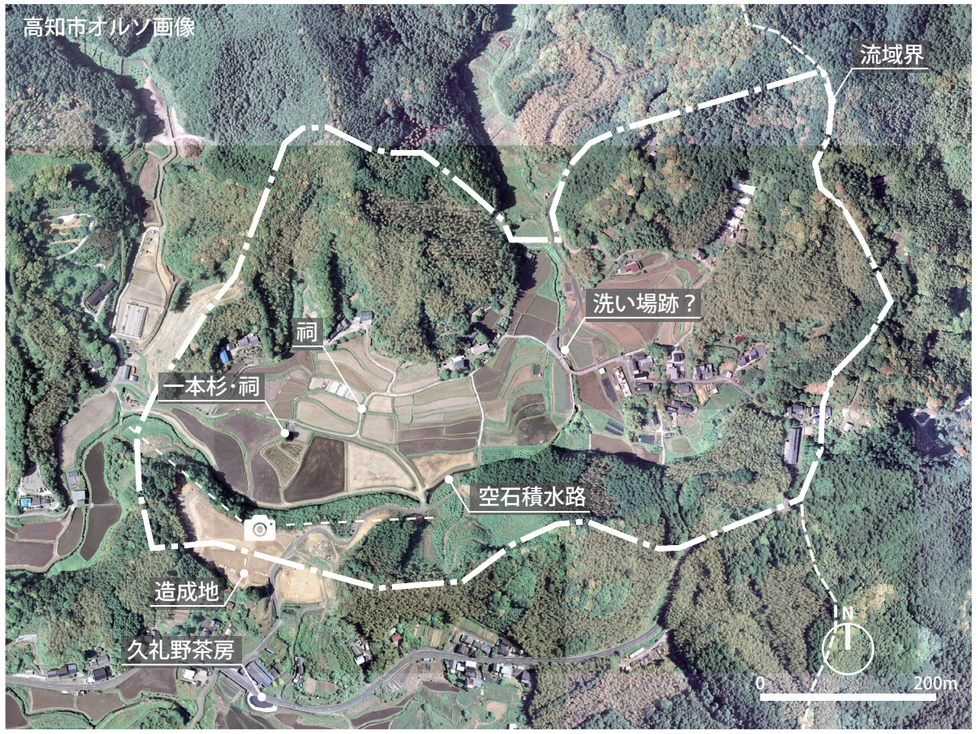
# 【参考】新たな保全手法に基づく景観形成区域の候補地（案）

## ㉙ 久礼野地区（2018.12.3 に行った地元キーパーソン 1 名へのヒアリング結果を踏まえて検討したもの）



写真は全て 2018.5.25 撮影

**【候補地の範囲】**

○久礼野地区には，緩やかな地形の谷あいによく手入れされた水田が広がっている。当候補地は，小高い山に囲まれ，ひとまとまりの景観として認識される集落の範囲を想定する。

**【現状の評価】**

○集落北側の谷地は休耕地となっているものの，南の造成地から見渡せる範囲に目立った休耕地は見られず，美しい田園が広がっている。

○未拡幅の道路沿いには手入れの行き届いた祠や一本松などが残り，暮らしの文化が集落で大切にされている様子がうかがえる。

○近年に改修されたと思われる農業用水路の護岸が空石積となっており，生物多様性への配慮も感じられる。

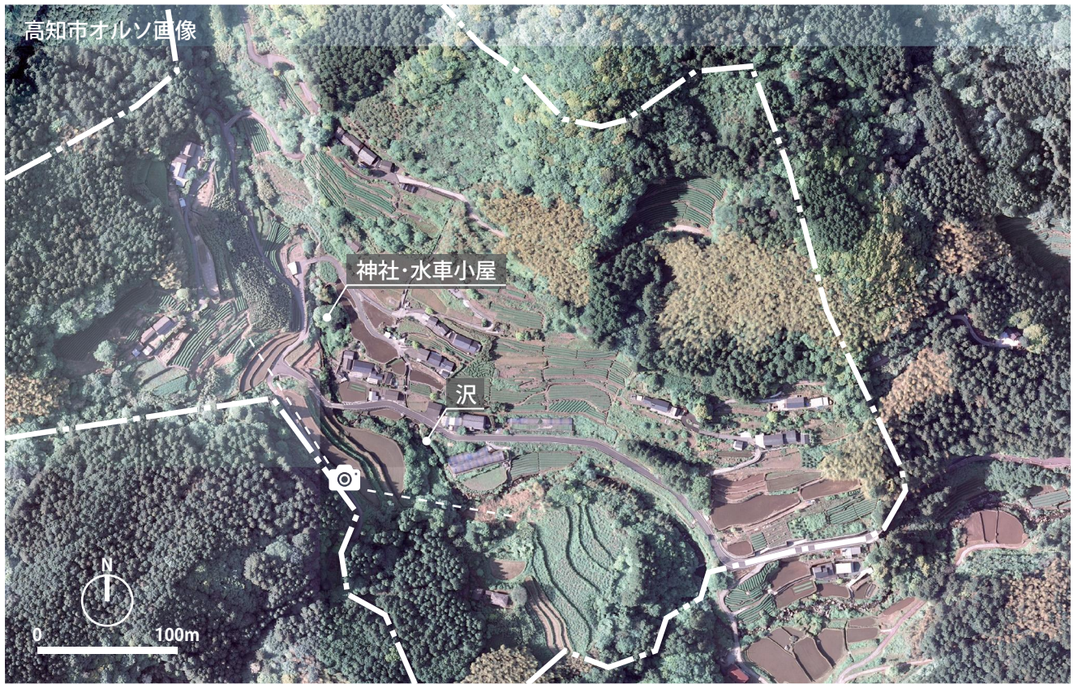
○久礼野地区の主な活動団体として「里山保全会」がある。人と自然が共生した “里山の原風景” を将来世代に引き継いでいくため，人づくりに関する様々な活動が展開している。

○上述の水路は，住民によって自主的に草刈りが行われるなどホタルの生息環境として保全され，初夏のホタル観察会に活用されている。

○外部との交流も活発。地域活動には若い担い手や外国人の関わりもある。住民自ら楽しみつつ活動しており，地域づくりが軌道に乗った状態にあると思われる。

注）平成 17 年度調査時の候補地は，重倉地区の水田を含め,「重倉地区の棚田」として想定されていた。しかし，重倉地区では県道沿いを中心に新興住宅が住宅が目立ち，農村らしさが感じられにくくなってきている。このため，まずは久礼野地区を対象とし，改めて候補地の検討を行った。

## ㉜ 坂口地区（2018.12.7 に行った地元キーパーソン 1 名へのヒアリング結果を踏まえて検討したもの）



沢への見通しを阻害している雑木：2018.12.7 撮影

崩れたままの棚田の石垣：2018.12.7 撮影

景観と日照を阻害している成長した植林：2018.12.7 撮影

沢を挟んだ対岸の道路から見渡した景観：2018.4.22 撮影

**【候補地の範囲】**

○的渕川上流の支流域の山肌に拓かれた石垣の棚田および集落。当候補地は，沢を挟んだ対岸の道路から一望でき，ひとまとまりの景観として認識される集落の範囲を想定するもの。

**【現状の評価】**

○坂口地区は 12 世帯の集落。うち 3 世帯は高齢者の独居世帯。営農の存続が厳しくなりつつあるなか，手入れされた美しい農村景観が保たれている。

○一部の水田は，萱場，茶畑，四方竹畑等に置き換わり，営農が続けられている。

○過去には，鏡小学校の児童がスケッチのために訪れていたことから，元々“絵になる美しい場所”として認識されていたと推測される。

○沢沿いに繁茂した雑木が沢への見通しを阻害。成長した植林が圧迫感と日照阻害をもたらしている。崩れた石垣も放置されている。高齢化に伴うマンパワー不足で，管理ができなくなりつつあるとのこと。

○地元主催の交流イベントとして「桜まつり」を 2 度開催したが，継続しなかった。“働き者”ではあるものの，外部との交流を楽しむ気質ではないとのこと。（久礼野地区と対照的）

○上記の課題や住民の気質を考慮すると，住民が営農の継続や暮らしの場の手入れに前向きな気持ちを持ち続けられることが重要であり，そのための公助が求められていると推察される。

○雑木や植林の手入れが行われれば，景観の改善のみならず，生活環境および住民が感じている将来への閉塞感の改善効果も期待できる。

○石垣保全のマンパワー確保については，徳島県上勝町で展開中の「石積み学校」のように，マッチングの仕組みで実現できる可能性がある。